

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	4企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	おーらじえい	団体ウェブサイトURL	
	オーラJ	www.ora-j.com	
代表者職・氏名	代表・坂田誠山		
制作団体所在地	〒 151-0072	最寄り駅(バス停)	京王線・笹塚駅
	東京都渋谷区幡ヶ谷2-29-5 五味楽器ビル1F		
電話番号	050-5858-9016		
ふりがな 公演団体名	おーらじえい	団体ウェブサイトURL	
	オーラJ	www.ora-j.com	
代表者職・氏名	代表・坂田誠山		
公演団体所在地	〒 151-0072	最寄り駅(バス停)	京王線・笹塚駅
	東京都渋谷区幡ヶ谷2-29-5 五味楽器ビル1F		
制作団体 設立年月	1998年9月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表:坂田誠山 運営幹事:佐藤容子(音楽部門)、門脇央知(事業部門) 監事:森博明	日本音楽及びアジア音楽に関わる、演奏者、作曲家、評論家、企画者等の実演者及び制作者。これらの実績を有する、又は志す個人・団体。	
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	門脇央知
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	坂田誠山

<p>制作団体沿革</p>	<p>1993年に日中韓三国の代表的民族楽団が提携して、東北アジアの民族楽団「オーケストラ アジア」が企画され、その後98年に「オーケストラ アジア・ジャパンアンサンブル」として日本楽器を主とする活動を開始。2000年からは、「オーケストラ アジア」から独立し、名称を『オーラJ(AURA-J)』と改め、毎回明確なテーマを持った自主定期公演を実施する演奏団体として活動している。</p> <p>現在までに37回の自主定期公演を行い、新しいアプローチによる日本音楽の作品を創作、上演。北杜国際音楽祭では全国現代邦楽合奏団コンベンションのホスト団体を務め、全国のアマチュア邦楽演奏家への講習などを行った。他に、全国で学校公演を多数実施し、国立劇場主催公演や、各作曲コンクール、地方自治体主催公演など多数の受託公演へも参加。一方で、ハワイ大学、テキサスTAM大学など多数の海外機関より招聘され公演や講習会などを実施し、海外からの実演家留学生の受け入れも行っている。また、近年では在外大使館が現地で上映する動画などにも参加している。</p>				
<p>学校等における公演実績</p>	<p>徳島、長野、茨城、鳥取・島根・山口・広島・岡山・三重・和歌山・大阪・千葉・東京など各地にて多数実施。小中学校以外にも、高校、大学、海外の学校における公演実績もあり。</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>文化庁事業での多数の公演以外では、徳島県立ひのみね養護学校での公演がある。その他に、聴覚障害学級、特別支援学級での実施実績もあり。</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://officekadowaki-my.sharepoint.com/:f/g/personal/e-chi_officekadowaki_onmicrosoft_com/EncF6p6xh0hJhwV4Wr1uSIB4ugnNiiVFi39SN8cEnA-Q?e=POuNpg</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td>kodomo2023</td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:	kodomo2023				

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 オーラ】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	日本の自然と音 ～尺八～				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「日本の自然と音 ～尺八～」は、日本の伝統楽器である尺八が、日本の自然をどの様に表現してきたかをテーマとしたコンサートプログラムです。最大三重奏の尺八演奏を主としますが、一部では尺八以外の日本の管楽器も使用します。</p> <p>公演内容 ・楽器の解説(尺八の構造・歴史、尺八以外の日本の管楽器など 20分) ・鹿の遠音 古典(解説込10分) ・鶴の巢籠 古典(解説込10分) ・子供のためのポップスメドレー(10分) ・ソネット(I-Vより) 三木稔 作曲(10分) ・Doldrums IIIb ～尺八と聴衆のための協奏曲～ 山本和智 作曲(児童・生徒との共演プログラム 20分)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 80 分</p>				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	日本の伝統楽器である尺八は、古くから、自然と一体となる音色を持ち合わせていました。このコンサートでは、日本の風土に即した、日本固有の音色を感じてもらいたいと思います。形態は独奏から三重奏までの尺八演奏を主としますが、一部では尺八以外の伝統管楽器も使用します。尺八本来の持つ豊かな音色と、迫力のある演奏を三人の尺八奏者が演奏します。また、鑑賞の補助として視聴覚資料(プロジェクター使用)を用いた解説を併用し、コンサートをわかりやすく進行します。				
演目選択理由	日本の伝統楽器である尺八は、古典的な楽曲ばかりではなく、オーケストラとのコンチェルト、ポップスでの電子楽器との共演など、現代でも活躍の場を広げています。日本の伝統音楽である尺八が現代へ受け継がれ、さらに現在の音楽シーンに合わせても自由に発展し続けることを感じ、古典的な楽器でも工夫や発想によって、様々な芸術的可能性を発揮できることを感じて欲しいと思います。この様に尺八の持つ音楽性は多彩な様相を呈していますが、その音色は日本の風土が持つ固有的なものです。日本の風土が持つ自然の音から発した音楽に親しみを持ち、日本の音楽文化や歴史を体感してもらい、尺八について興味を抱いてもらうきっかけを作ることができると考え、この演目を選択しました。				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	子どもたちは、「Doldrums IIIb～尺八と聴衆のための協奏曲～」という曲で共演します。この曲はもともと観客が参加して、舞台上の尺八と一緒に演奏し、楽曲を作り上げる形式になっています。観客は自然(風雨)の音を、リコーダー・尺八などの管楽器や、紙・クリアファイルなどの身近なもので発生させて演奏に参加します。指揮者の指示、尺八の演奏に合わせて演奏しますが、どのような音を出すかは各奏者(聴衆)に委ねられます。				
出演者	尺八:坂田誠山、関一郎、山口賢治、本間豊堂、高橋慧山、阿部大輔、他				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 3 名	運搬	積載量: 1 t		
	スタッフ: 1 名		車長: 5 m		
	合計: 4 名		台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去
	11:00	11:00-12:00		13:00-14:30	10分	14:30-15:00
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	15日		20日	20日	
	11月	12月	1月	計	125日	
	20日	15日	15日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安		350
				鑑賞人数目安		350



尺八三人による演奏ですので、どの様な場所でも実施可能です。今までに体育館以外でも、教室や多目的室、公民館のホールなど、様々な場所で上演してきました。公演に必要な最小サイズは幅5m×奥行き2mです。また、必要な備品は電源(通常の容量)、パイプ椅子、長机など一般的な物のみです。



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>・楽器や鑑賞ポイントについての解説(10分) 演奏方法や特徴的な音について解説します</p> <p>・楽器の鳴らしかた体験(15分) こちらが用意した体験用尺八を体験してもらいます。</p> <p>・本公演で共演する演目の指導(20分) 本公演で共演する演目の説明と準備をします。どういった指示の時に、どういった演奏(行動)をすればよいか、具体的に説明します。</p> <p>子どもたちには、「DoldrumsⅢb～尺八と聴衆のための協奏曲～」という曲に参加してもらいます。難しそうなタイトルですが、参加方法は簡単です。観客は自然(風雨)の音を、リコーダー・尺八などの管楽器や、紙・クリアファイルなどの身近なもので発生させて演奏に参加します。指揮者の指示、尺八の演奏に合わせて演奏しますが、どのような音を出すかは各奏者(聴衆)に委ねられます。</p> <p>事前のワークショップにおいて指示の見方や、演奏の方法を説明いたします。演奏する楽器も、リコーダーやハーモニカなどが用意できる場合はそれらを使用します。用意が難しければクリアファイルや紙を使用します。高学年はリコーダー、低学年は紙など混合にしたり、希望者には尺八を吹いてもらうなど、色々な形態に合わせて参加していただけます。</p> <p>この曲で聴衆は、手近にある楽器や、楽器ですらない身近なモノで自然の音(風や雨の音)を作り出して演奏します。どうやって指示された自然の音を表現するか、子どもたちはよく考えて表現する事により、色々な事に気づきます。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>本公演を効果的に鑑賞するための事前解説を、実演を交えながら行います。共演プログラムで参加する演目の指導では、子どもたち自身が出す音がどのような音で、どうやって出すかを考えます。指導者とコミュニケーションを取り、尺八奏者と楽曲を作り上げることで、自分の役割を認識し、合奏する楽しみや、発音(演奏)する楽しみを感じてもらいます。楽器の鳴らし方体験では、実際に楽器に触れてもらって、尺八の仕組みや特徴を感じてもらいます。おおよそ簡単には音がでないと思われそうですが、音を出すために創意工夫することや、身の回りにある類似構造の物でも発音できること、実際に音が出たときの喜びなどにより、興味や好奇心を持つきっかけを作ります。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>合奏の発音過程において、言葉や文字に置き換えて出したい音を探るなど、指導者と受講者、受講者同士などの双方向での作業を行いたいので、少人数の場合はグループワークを行います。受講人数によって調整します。また、本公演とワークショップの同日開催も可能です。</p>		

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

オーラJ

】

i) 離島・へき地等における公演実績

文化庁事業以外では、福島県1公演、徳島県1公演、熊本県1公演、新潟県1公演の離島・へき地における学校公演実績あり。また、海外での学校公演実績も数校あり。
学校公演以外でも山間部や海外などでの公演実績あり。

ii) 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

【特殊な事情がある地域で実施する上での工夫】

移動・準備が容易な管楽器のみでのプログラムであるので、移動・運搬について受ける制約は極めて少ない。楽器以外の機材も手持ちで可搬できるものを使用し、運搬に自動車を全く使用せずに対応することも可能(離島などの船便に制限があっても人が乗ることができれば移動できる)。また、演奏に使用する面積(エリア)も少なくすみ、公演の場所を選ばない。

【質を保つための工夫】

楽器構造上の利点により、尺八演奏は比較的環境の変化に対応しやすく、過酷な条件下でも安定した演奏が期待できる。その補助として小型音響装置を拡声用として適宜使用し(生音で問題無ければ非使用を優先)、演奏者、観客双方に環境による無理を強くないようにする。また、派遣に対応できる技能を有した尺八奏者が他楽器と比較して多く、編成も小さいので複数チームを作ることができ、体力や他公演を考慮した日程を組むことができる。このことによって、余裕のある日程組ができ、一定の質を保つことができる。

iii) C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫

楽器機材が小さいことと、楽器以外機材も少ないため、奏者とスタッフの移動と同時に機材も運べるので、運搬を別途依頼することがなく、ほぼ移動費のみで巡回することが可能。また、ワークショップの同日開催も可能なので、派遣費の削減が可能。

C区分で事業を
実施するに当たっての工
夫

リンク先	No.2	【公演団体名	オーラ】
------	------	--------	------

日本の伝統楽器である尺八は、古くから、自然と一体となる音色を持ち合わせていました。このコンサートでは、日本の風土に即した、日本固有の音色を感じてもらいたいと思います。
形態は独奏から三重奏までの尺八演奏を主としますが、一部では篠笛などの他の伝統管楽器も使用します。尺八本来の持つ豊かな音色と、迫力のある演奏を三人の尺八奏者が演奏します。また、鑑賞の補助として視聴覚資料(プロジェクター使用)を用いた解説を併用し、コンサートをわかりやすく進行します。

・楽器の解説

まずは日本に伝わる伝統的な管楽器を紹介しします。尺八の他に、篠笛・能管・龍笛などは実際に音を出して紹介しします。その他の各種の日本の笛は視覚資料にて紹介しします。日本に伝わる笛にはどのようなものがあり、どのような場面で使い分けしているのかを解説しします。

・鹿の遠音・鶴の巢籠

尺八の古典曲を鑑賞してもらい、伝統的な音楽に触れてもらいます。この曲は名前の通り、自然の動物からモチーフを得ており、特徴的な情景描写を含みます。演奏と合わせて、特殊奏法や、曲の聞き所を解説し、曲自体の理解を深められるようにします。

・子供のためのポップスメドレー

古典音楽という、現代ではあまり身近ではない音楽を聞いた後で、尺八という楽器でも現代の流行曲や定番曲を演奏できることを実感してもらいます。前半は古典的で少し難しいと感じる部分があったかもしれませんが、少し楽にして耳に馴染んだ曲を聞いて、尺八に親しみを覚えてもらいたいと思います。また、古典音楽との違いについても感じ取ってもらいます。

・ソネット

ここでは現代の純粋芸術音楽を鑑賞してもらいます。尺八音楽の新しい形ですので、尺八の可能性や、尺八音楽の芸術的魅力を感じてもらい、楽曲そのものの音楽的魅力に触れてもらいたいと思います。

・Doldrums IIIb ~尺八と聴衆のための協奏曲~

この曲はその名の通り、尺八と観客が一緒になって作り上げる楽曲です。風の音、雨の音、風雨合わせた音などを観客が発生させ、尺八と一つになり楽曲を完成させます。観客とその場を一体化させるために、不思議な装置を使用するなど、観客参加以外にも楽しい見どころがあります。

演目概要



1. 楽器解説「尺八のしくみと歴史」
尺八という楽器のしくみや歴史をお話します。尺八以外の日本の笛も少しだけご紹介しします。
2. 尺八の古い曲「鶴の巢籠」、「鹿の遠音」
古くから伝わる、尺八の曲です。季節の通り、自然の景色を尺八で表現しています。昔の日本人は、感じた景色をどのように音楽にしたのでしょうか。表現方法に耳を傾けて下さい。
休憩
3. 「子供のためのポップスメドレー」
前半は古い曲を聞いてもらったので、みなさんも知っている音楽を尺八で演奏します。聴き慣れない音楽が続きましたので、力を抜いて楽しい気分を聴いて下さい。
4. ソネット (I-Vより) 三木 悠 作曲
20世紀後半に作曲された尺八の曲です。古い曲とはどう違うのか、聴き比べてみましょう。
5. Doldrums IIIb ~尺八と聴衆のための協奏曲~ 山本 和智 作曲
この曲は、聴衆の通り聴衆(観客)と演奏者(尺八)が一体となって演奏します。みなさんは風の音や雨の音の表現で参加して下さい。現代に暮らしている皆さんが、自然の風や雨をどう感じているか。皆さんの表現方法によって、演奏が決まります。

